

〔泌尿紀要 4 卷11号〕
昭和33年11月

新鎮痛剤オノトンの使用経験

大阪大学医学部泌尿器科教室（主任 楠 隆光教授）

教 授 楠 隆 光
講 師 馬 場 正 次
助 手 前 川 正 信

Urological Application of Onoton

Takamitsu KUSUNOKI, Masaji BABA and Masanobu MAEKAWA

From the Department of Urology, Osaka University, Medical School

(Director : Prof. T. Kusunoki)

We used Onoton (a product of Ono Pharmaceutical Co., Ltd.) to relieve the pain following various urological examinations and minor operations.

We obtained excellent results in the majority of the cases.

オノトンは今回新しく小野薬品より製造発売された鎮痛剤であつて、次のような組成より成っている。

プロマジン塩酸塩	20mg
ピラビタール	200mg
スルピリン	100mg
アロバルビタール	10mg
塩酸デフェンヒドラミン	20mg

即ち、一種のクロールプロマジンカクテルともみられ、従つてプロマジン塩酸塩により、生体反応の抑制効果を期待し、併わせてピラビタール、スルピリン、アロバルビタール等の組み合わせによる鎮痛作用の協力効果を増強せしめ、更にその持続時間の延長を図らんとするものである。

製剤は1筒 2cc、微黄色の液体である。

泌尿器科領域に於いて、包茎手術、精管結紮術等の小手術は主として通院患者に対して行われるため、手術に対する患者の不安を解除し、疼痛は抑制するが、睡眠作用は余り大きくない薬剤をプレメデケーションとして、又は手術後の疼痛発現に備えて使用することが望ましい。また泌尿器科的諸検査、即ち膀胱鏡検査、尿管カテーテリスムス、後腹膜腔気体造影法、手術

操作を伴う精嚢腺造影等に応用する場合は、被検患者に於て精神的不安又は疼痛による過度の緊張のないことが望ましい。検査の種類によつては、患者は精神的並びに肉体的に安静状態にあり、その上迅速に医師の呼びかけに応じる必要があり、この場合大きな中枢抑制状態にないことが望まれる。即ち、外来患者を対照とする泌尿器科的小手術の補助麻酔剤として、また経尿道的泌尿器科的諸検査並びに手術、その他の泌尿器科的諸検査に粘膜麻酔剤や局所麻酔の補助として要請される薬剤は、1)安価、2)使用法が簡便、3)鎮痛効果が可及的大きい、4)睡眠作用が少い、5)効果の出現が迅速で、持続時間が長い、6)副作用が無い、等の諸条件を充たすものであることが望ましい訳である。

オノトンは以上に述べた我々の希望を可成りの程度に充たすべく製造されたものである。

使用成績

我々は小野薬品より本剤の提供を受け、阪大病院泌尿器科外来患者63例に使用し、その55例に於いて満足すべき成績を得た。その内訳は、膀胱鏡検査38例、尿管カテーテリスムス8例、後腹膜腔気体造影法3例、精嚢腺造影法2例、膀胱碎石術3例及び小手術9例で、即ち検査の目的で49例、手術の目的で14例であ

る。63例中55例、即ち86.7%にその効果が認められ、無効は8例、即ち13.3%であつた。副作用としての睡気は20例、即ち31.8%にみられたが、検査の妨げとなつたものではなかつた(表1)

第1表 オノトン注の使用成績の一覧表

術 式	例数	鎮痛効果		催眠効果			備考
		有	無	無	軽度	強度	
膀胱鏡検査	38	32	6	24	12	2	
尿管カテーテリス ムス	8	7	1	7	1	0	
後腹膜腔気体造影 法	3	3	0	2	1	0	
精囊腺造影法	2	2	0	1	1	0	
膀胱碎石術	3	3	0	1	1	1	
小手術	9	8	1*	8	1	0	*2筒 使用
計	63	55	8	43	17	3	

使用 方 法

術前5～10分に1筒2ccを患者の上膊部筋肉に注射した。更に術中或は術後に各1筒追加使用した症例もある。

効 果

個人差はあるが、大体5～15分で効果が発現し、少くとも4～6時間持続する。検査の目的で用いたもので、検査中睡眠のため検査の妨げとなつた症例はないが、終了後睡気が強く、1～2時間診察室で臥床した後帰宅したものが3例あつた。しかし無効例と雖も、検査が不能であつたと云う訳ではない。膀胱鏡検査に際し、本剤単独使用、オノカインゼリーとの併用、及びオノカインゼリー単独使用の3者を比較してみたが、有意の差は認められなかつた。従つて膀胱鏡検査の目的で使用する場合は、鏡筒挿入の際、術者の熟練度が影響するが、本剤の使用により粘膜麻酔剤の併用は必ずしも必要ではないと考える。

副 作 用

悪心、嘔吐、痙攣、ショック、呼吸抑制及び腸管麻痺等の副作用はみられなかつた。なお、使用対照に長時間持続する疼痛を訴える悪性腫瘍又は大手術患者を含め所から、習慣性の有無は検し得なかつた。

考 按

要するに本剤はクロールプロマジンカクテルと考えられるから、クロールプロマジンによる

抗痙攣、制吐作用及びショック防止作用を有すると共に、ピラピタール、スルピリン、アロパルピタール等の協力による鎮痛及び鎮静作用を長時間延長せしめる長所がある。

また、一般のカクテル製剤に比し各配合薬剤の量が少量宛であるところから、速やかな吸収による鎮静効果の少い利点から、通院患者を対照とする泌尿器科的諸検査及び小手術の疼痛防止並びに緊張の寛解及び術後の疼痛予防に使用して便利であつた。我々は63例の諸種の泌尿器科的検査並びに小手術患者に使用し、その55例、即ち86.7%に極めて満足すべき結果を得た。また、20例、即ち31.8%に眠気をみたが、3例を除いては何れも軽度で、検査及び手術の遂行が円滑に行われたのみではなく、何れも安全に帰宅せしめ得た。膀胱鏡検査には、その5～10分前に注射しておくことにより、粘膜麻酔剤の使用を省略することの出来たのは予期しない利点であつた。検査目的には、技術の過誤を考慮に入れると、鎮痛効果、催眠効果共に過大にすぎぬ必要があり、その持続時間も過長にすぎぬ必要がある。此等の点から、本剤は他のクロールプロマジンカクテルに比し、適当で手頃な鎮痛剤であり通院患者を対照とする一般外科小手術患者にも充分使用可能のものと考える。

結 語

1. 新鎮痛剤オノトンを通院患者の泌尿器科的諸検査及び小手術の鎮痛鎮静の目的に使用した。63例中55例、即ち86.7%に有効であり、検査の妨げとならない程度の軽度の催眠作用を20例、即ち31.8%に認めた。

2. 膀胱鏡検査の施行は本剤2cc筋注5～10分後、粘膜麻酔剤の併用なしに大部分の患者に於て可能である。

3. 本剤は通院患者を対照とする一般外科的小手術の補助麻酔剤としても充分に使用可能である。

本文の要旨は第135回日本泌尿器科学会大阪地方会に於て発表した。